

## 令和6年度第4回市民力推進委員会 会議録

日 時 令和7年3月12日(水) 18:30~20:30  
場 所 長崎市役所7階 記者会見室兼中会議室  
出席者 委員長 山口純哉  
委 員  
岩本諭、上野美也子、梅川健治、江口忠宏、大野俊一、林田英昭、平山美香、松下隆、  
宮崎真奈美、吉田伸吾(敬称略)  
事務局 印藤真哉、川口育美、野中誉仁、溝口紗代、原田宏子

### 次 第

議題1 令和6年度の事業報告

議題2 経済的支援の見直しについて(報告)

議題3 令和7年度予定事業の説明

事務連絡等

## 令和6年度第4回 市民力推進委員会会議概要

日時 令和7年3月12日(水) 18:30~20:30

場所 長崎市役所7階 記者会見室兼中会議室

出席者

**市民力推進委員会**：

山口純哉委員長

岩本諭委員、上野美也子委員、梅川健治委員、江口忠宏委員、大野俊一委員、林田英昭委員、  
平山美香委員、松下隆委員、宮崎真奈美委員、吉田伸吾委員

**事務局**：印藤市民協働推進室長、川口係長、野中、溝口、原田

### － 会議概要 －

議題1 令和6年度の事業報告

議題2 経済的支援の見直しについて(報告)

議題3 令和7年度予定事業の説明

会議次第に従い山口委員長が進行

—— 議題1 令和6年度事業報告 ——

【委員長】

議題1 令和6年度事業報告について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局による説明

⇒委員からの意見等なし

—— 議題2 経済的支援の見直しについて ——

【委員長】

議題2 経済的支援の見直しについて 事務局から報告願いたい。

事務局報告の後、委員から次のような質疑がなされた。

【委員】

資料7ページの申請用紙の見直しは、見直し前より項目が具体的で書きやすくなっているとは思いますが、項目が倍近くに増え煩雑になっていないか。

【事務局】

見直し前の様式では、記入例を示していても団体の方が同じ内容を何回も書く例が多かった。

今回の見直しでは、団体のミッションや補助申請の対象事業の考え方などを重複して記載することがないように整理し、見直しを行った。

【委員長】

今回の見直しで、まずやってみて団体の反応も見ながらまた考えていただければと思う。

【委員】

特化型の補助金は検討するという話があったが、今の若者向けの補助金はなくなるのか。

【事務局】

伝習所の若者向けの補助金「若者まちづくりチャレンジ補助金」は継続する。

見直し対象の市民活動支援補助金については、若者にも魅力的になるよう加点するなど審査要領の見直しの中で皆さんのご意見を伺いながら変えていけたらと考えている。

——— 議題3 令和7年度予定事業について ———

【委員長】

議題3 令和7年度予定事業について事務局から説明をお願いしたい。

事務局説明の後、委員から次のような質疑がなされた。

【委員】

動画制作については、外注に出すのか。市民活動団体などに出したらいいのではないかと思う。

【事務局】

この事業は、行政と市民活動団体が事業の企画から実施までを協働して行う提案型協働事業として、ながさきダンカースクラブから企画提案をいただき取り組むもの。

動画制作の対象として、センターの登録団体の中から10団体程度を選定する予定で、制作した動画はホームページやSNSで発信するなどし、企業を含む様々な主体にアプローチしマッチングするなど活用できればと考えている。

【委員長】

私の方から単なる意見ですけど、伝習所の40周年記念冊子は、すごくいいこと。

当初の伝習所の膨大な研究成果として積み上げられた報告書から興味の合う仲間のネットワークや興味の手も広がり報告書の中身が徐々に変わってきているように思う。

当初は膨大なテキストとして文書化されたものからテキスト化されていない膨大なデータとして文書化されていない世代のものまで変わってきているのかなと思う。

ここで1つ40周年記念のウェブページを作ったり、先ほどの動画なども含めて活用したり運営委員の方でも考えてもらえたらいいかなと思う。

【委員】

新規に活動を始めた団体や活動の継続ができず辞める団体もあると思うが、ランタナの登録団体でどのくらいの団体が継続して、あるいは新規に登録されているのか。

また、NPO法人を立ち上げるにはどのようにすればよいか。

【事務局】

令和5年度で、7~8割5分強ほどが継続して登録しているかと思う。今年度は、新規登録が16団体で登録をやめた団体は6団体。理由としては活動が継続できない、高齢化で会員がいなくなったというのが多かった。

NPO法人については、県民ボランティア活動支援センターに法人化の手続きに行き、それからランタナでも何かあれば相談に応じるなど情報交換をしながらフォローしている。

【委員長】

団体の生存率というか、やめる団体の割合等調べるのはいいかもかもしれない。

【事務局】

令和6年度時点までに認証を受けたNPO法人のうち3分の1くらいは解散している。

【委員】

令和7年度の事業について、市民協働推進室とランタナがそれぞれ何をやるのか整理してもらいたい。

【事務局】

お配りしている資料が、現在決まっているもの。

市と協働して実施する合同補助金説明会には15組の応募があつている。

また、市民活動団体やNPO法人と行政、社会福祉協議会など支援者も一緒になった講座「地域の困りごとを相利協力で解決しよう」というシリーズの講座にもすでに応募があつている。

8月には、補助金説明会や東日本大震災から来年で15年目となることから災害支援をキーワードにして企業やNPOなどのつながり・交流ができればと考えている。

【委員】

民間の分もまとまっていて、非常に参考になるなと思った。

すごくいい取組だと思う、期待している。

【委員】

ジャンプ補助金を採択していただき、無事に事業を終了することができた。

補助金申請をしたことで、スタッフの若者たちの意識の変化や成長だけでなく、募集に際し実施してもらった長崎市の公式LINEの反応がすごかった。

こうした補助金に限らず広報支援などがあると非常に助かり、意義があることだと思う。

また、若者はやろうと決まれば動きも速く、実行力がある。

大学の授業などでも課題に沿って面白いアイデアを持った若者がたくさんいると思うのでいろんな取組が出来るのかと思う。

【委員長】

学生はやる気がないわけではなくて、興味の幅が狭い子が多い。ピンポイントで情報を与えることが大事で、与えた課題を入り口にしてそこから広げていくといいと思う。

先ほど災害の話も出たが、先日まで福島にいて報道もなされていたが、今後除染土の受け入れの問題があり、社会的な課題が出たときに行政と市民が議論し、参画と協働が諮れるかという、その質が問われるという話題も出ていた。

南海トラフの問題でも宮崎県の支援に長崎県が選ばれており、災害支援というなかに子育て支援など多岐にわたる支援が出てくると、今以上に市民活動の役割や行政と企業の協働などさらに大事になっていくと思われる。今後、ランタナを中心に考えていけたらと思う。

以上で審議を終了する。

－ 以 上 －